

2. 事例紹介

これまで、水源地域活性化調査を実施した地域の中から、①水源地域対策特別措置法の指定を受けたダム、②近年、水源地域活性化調査を実施したダムに該当する9ダムにおける活動内容をご紹介します。

(1) 川治ダム（栃木県日光市）

◆実施主体

川治温泉“水のふるさと”いきいき発見推進協議会

◆水源地域活性化調査時の活動内容

①体験プログラム開発及び人材育成

- ・男鹿川・大下沢のフィールド調査、川治ダム湖・五十里ダム湖でのカヌー・カヤック調査、ノルディックウォーキング調査やインストラクター講習会、カヤック体験等を実施。

②地産地消をテーマとした“食”のメニュー開発

- ・ホテル・旅館での新メニューの開発・試作、川治ならではのB級グルメの開発検討。
- ・川治温泉のイベント「ふれあい秋の縁日」及びモニターツアーにて試食会・アンケートを実施。

③温泉街の回遊性の向上と“おもてなし”の仕組みづくり

- ・川治の水でお茶を入れ、観光客をおもてなしするプロジェクトを推進。
- ・道祖神や「かわじい」のモニュメントを有効活用し、スタンプラリーを実施。

◆地域の関わり

川治ダム水源地域において実施された水源地域活性化調査は、「協議会」が中心となり、「川治温泉旅館組合」、「川治温泉観光協会」、「川治商店会」、「川治飲食店組合」、「行政」、「都市住民」の7主体が連携して実施しました。

各主体の役割分担

	指揮者・リーダー	起案者・発案者	専門家・助言者	宣伝者	事務者	支援者・後援者	同好の士・同調者
協議会	●	●		●	●		
(川治温泉旅館組合)	●	●		●	●		
(川治温泉観光協会)	●	●		●	●		
(川治商店会)	●	●		●	●		
(川治飲食店組合)	●	●		●	●		
行政						○	
都市住民						●	
マスメディア				●			

●水源地域活性化調査以降も継続
△水源地域活性化調査以降は撤退
○水源地域活性化調査以降に参画

◆水源地域活性化調査以降の展開

水源地域活性化調査で得られたノウハウ等を活かし、有限会社ネイチャープラネットと連携しながら年間を通じた体験プログラムの提供（ノルディックウォーキング体験、カヌー体験、山菜採り体験、ガイド付きハイキング、スノーシュー体験など）や、地域活性化のコーディネーターの育成、養蜂事業、オリジナル紅茶開発事業などを実施しています。

さらに、2010年に閉校となった「日光市立川治小学校・中学校」の学校跡地の活用策を日光市とともに検討しています。

◆課題

収益事業を実施していないため、行政等の補助金に頼らざるを得ない状況になっています。

補助金等の情報も含め、行政からの情報提供がないため、活動を実施するための情報を自ら収集していく必要があります。

◆まとめ

川治ダム水源地域では、地域との関わりが深い既存団体からなる協議会を立ち上げることにより、実施主体の明確化や地域内での認知が促進され、活動が推進しやすい環境を整えることができました。

また、マスコミへの積極的な情報提供をすることにより活動を取り上げられ、地域内外に活動を発信することが可能となり、活動の認知や参加者の増加につながりました。

さらに、モニターツアーの実施や、試食会などを通して得られた消費者の声をもとに、商品（体験プログラムや特産品など）を改良するとともに、人気が高い体験プログラムを洗練させていき、ここでしか体験できない価値の創造を目指しています。



ノルディックウォーク実施エリア



スノーシュー体験実施エリア

活動の流れ (川治ダム)

